

沖縄の高校生の学校や近隣におけるソーシャル・キャピタルと健康関連行動

高倉実（琉球大学医学部），宮城政也（琉球大学教育学部），上地勝（茨城大学教育学部），栗原淳（佐賀大学文化教育学部），濱畑有衣子（琉球大学大学院保健学研究科），中尾言里（琉球大学大学院保健学研究科）

ソーシャル・キャピタル（SC）は社会における信頼・互酬性の規範・ネットワークといったリソースのことで，社会関係の解明に役立つ概念であり，その健康影響についても注目されている。SCは組織や地域などの社会集団内で醸成されることから，拠り所となる準拠集団の単位が重要になる。高校生の場合，学校や近隣などの社会的空間は彼らの日常を反映したコミュニティとみなすことができる。しかし，青少年のSC，特に学校SCと健康影響に関する研究はきわめて少ない。本研究は高校生を対象に個人の認知レベルからみた学校・近隣SCと健康関連行動との関連を検討した。

沖縄県全域から確率比例抽出により県立高等学校30校を抽出し各学年1学級に在籍する生徒3386名を標本として2012年10-12月に無記名の質問紙調査を行った。学校SCは生徒や先生の信頼と互酬性に関する7項目，近隣SCは近所の信頼と互酬性に関する5項目から測定した。健康関連行動は，現在喫煙，現在飲酒，性交経験，身体活動を用いた。

学校SCは健康関連行動と総じて予防的な関連がみられ，学校SCの認知レベルの高い生徒は健康的な行動をとる傾向にあった。この結果は調整変数を投入した後も変わらなかった。近隣SCは喫煙との関連は有意ではなかったが，他の行動とは予防的な関連を示した。しかし，調整変数投入後，身体活動のみ有意な関連を示した。

以上から，高校生の健康関連行動改善にとって学校SCは重要な役割を果たすと思われる。